

恵みと真理のニュース



2017 年 6 月の四次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



【証】

私と共におられ人生の道を導いて

医療宣教のビジョンを与えて下さった神様を賛美します

私の高校3年の夏に他の人より早く願っていた大学と学科に合格しました。すべての家族が神様に祈っていましたが私が合格するかとても心配するときに合格通報を受けてとても嬉しかったです。母は神様が助けてくださった結果だと言って神様に感謝献金を捧げました。私も自分の実力と努力以上の結果に驚いて神様の愛と導きに感謝しました。しかし、その喜びもまもなくその年の冬に体に異常を感じて病院でMRI検査を受けた結果、脳に先天的な異常が発見されこれから続けて薬を飲まなければならないとしました。他の病院では大脳皮質 異形性症という診断を受けました。その時、私と家族が受けた衝撃は言葉で表現できないほど大きかったです。その一週間後、私は青年連合会の冬修練会に参加しました。初めの日、聖霊充滿祈り会で長い間涙を流しながら神様に祈りました。そして、次の日には聖霊充滿の祈り会の時間になって御言葉を聴いて賛美をする時、神様が私を守って助けてくださる信仰と希望で満たされました。それで、不安感がなくなって心が平安になって神様に感謝の祈りをささげました。その以後、今まで薬を飲んでいますが生活をする間どんな不便なことが事もなく日常生活を送っています。神様の恵みです。

大学に入ったのも感謝しますが、理工学部で国家奨学生で先発され7学期の間全額奨学金を受けて勉強するようになりました。神様から受けた恵みと愛に感謝して教会と聖徒を仕えようと決心しました。高等部を終了してすぐ自閉や知的障害、発達障害を患っている学生

と聖徒を仕える希望部で教師として奉仕しするその難しい事を弱くて足りない私がよく担えるように神様が恵みを下さって力をくださいました。

希望部で奉仕しながら障害学生が生活する福祉館などに行き熱心に奉仕しました。そうしてこの人々がよく病院に行き続けて薬を飲まなければならないとする不便なことを共にしました。私も薬を飲んでいたのでその痛みと不便さをよく知っていてその過程で私は医療宣教のビジョンを持つようになりました。そうするうちで参席した青年連合会の祈りで海外宣教に行くのに医療人が必要だと祈りを頼みました。この日、祈りながらもっと医療宣教の重要性を深く認識して希望部で奉仕しながら医療宣教に対するビジョンを強く持ちました。

初めは希望部で医療宣教を考えた時、私の専攻が医学ではないので確信がなかったですが、学校で医学専門大学院の過程があるのを知ってから医、歯医学入門検査である‘MEET’という試験を準備しました。その後では、薬大学入門試験である PEET (Pharmacy Education Eligibility Test) で目標を変えました。全身全力を尽くしても難しい試験でしたが、親の荷物を少しでも減らすため勤労奨学生で勉強しながら神様に祈りました。すると、神様の助けと摂理で熱心に礼拝し奉仕しながら試験準備を続けることが出来ました。初めの試験を受けた時には様々な理由で期待した以下の点数を受けて失望してさすが、私が受けたビジョンが主からいただいたビジョンなのか、自分の欲ではなかったのか考えながら神様の御心を聴く祈りをしました。すると、神様から御言葉と聖霊の働きによって慰めと力を受けました。私は挫折しなくて再び勇気を出

して試験準備をしました。そして‘トドリム’というプログラムを知ることになって学費を支援してもらって勉強することが出来ました。その年には首ヘルニアで全力を尽くして勉強することが難しかったですが、学院でインターネットでの講義で聴き勉強することが出来ました。そのような過程を通して3回の試験の末に合格しました。たとえ、他の人々より長く勉強しましたが、神様が多様な方法と過程を通して私はビジョンのため一歩進むことが出来ました。

学校に入って以前よりもっと多い学業量で重圧感を感じて様々な大変な事がありました。しかし、そのときに神様を仰ぎ神様の恵みを受けて一年一年無事に進級して実習も終えました。そして、享年薬師試験に合格しました。また、就職も大変なこの時期スワンにある大学病院で就職しました。私が働くようになった大学病院の医療奉仕のクラブの中で恵みと真理教会と協力してスワン聖殿で定期的に医療宣教と奉仕活動をしていもっと神様に感謝します。

弱い体で勉強して働くのも無理ではないのかと教会で奉仕するため勉強する時間も少なくでどうしようと周りの人々からたくさん聞きましたが、このように神様が私と共におられ人生の道を導いて勝利してくださいました。私に神様は大事なビジョンを下さってそのビジョンを成し遂げられるように摂理してくださいました。神様の大きい恵みと愛を忘れなくいつも感謝する心で主の愛を実践し福音を伝えることに献身します。これから医療宣教に専く用いられる聖徒になるように願ひ神様にすべての栄光を捧げました。 ハレルヤ！



【信仰コラム】

異言を語ることを禁じてはなりません

“...そして、異言を語ることを禁じてはなりません。しかし、すべてを適切に、秩序正しく行いなさい。”(コリント人への第一の手紙 14:39、40)

蘇られたイエス様が昇天なさる前弟子達に“全世界に行き、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい。信じて洗礼を受ける者は救われるが、信じない者は滅びの宣告を受ける。信じる者には次のようなしるしが伴う。彼らはわたしの名によって悪霊を追い出し、新しい言葉を語る。”と言われました。この約束のお言葉は現在形であります。このようなしるしが今後常に現代的で生じることを意味します。聖霊の臨みと異言に対するイエス様のお言葉が約束通に叶えられる場面が使徒言行録に記録されています。多様な人々が多様な時間と場所、状況で聖霊としれ洗礼を受け、異言を語りました。

異言に対する非聖書的な見解と主張について調べてみましょう。

第一、コリント人への第一の手紙 12 章に記録され聖霊の恵みの中で異言と異言通訳の恵みは最後に記録されたからあまり重要ではない恵みだという主張です。その主張は正しくありません。記録されている順序がその重要性の順番を意味するとは断定できません。神様が下さる恵みは全て尊いことであります。第二、異言は外国語の中で一つだという主張です。聖霊の恵みとしての異言は学んで会得することができる外国語で

はありません。たとえ、誰が真似をするとしたらそれは真似であり、異言の恵みを受けて語るものではありません。第三、異言は同じ単語を意味なしに繰り返すことに過ぎないという主張です。このような主張は正しくありません。自分が全く聞いたことのない言語を聞くことになるいくつかの単語だけで話すように聞こえます。異言は異言通訳の恵みが与えられる時以外には聞くことができる人がない言葉なのでいくつかの単語だけで繰り返すように聞こえるのです。

異言で語るといかなる有益があるか調べてみましょう。

一、異言は神様と霊的に深い交わりをすることができるようになります。異言は語る者はその魂にて神様に秘密を語るようになります。二、異言は異言を語る人の信仰を向上させてくれます。個人の霊的な徳性を高める手段になります。三、異言通訳がある時には教会の徳を高めます。聖霊様が通訳する恵みをくださると聞くことができる言葉で通訳できて異言を通訳すると神様のお言葉を伝える預言のような効果を得ることができます。四、異言は私達の魂がお祈りと賛美をする手段になります。私達が日常に使う言語に加えてただ意味は分からなくても神様に秘密を語る異言でお祈りして賛美すると私達の信仰生活はより深く豊かになります。五、異言を語る時私達の心霊が清やかさと安息を得ます。異言のお祈りは魂ですのお祈りなので私達の心霊が疲れずに清やかさと安息を得るようになりますいくらでも長くすることができます。

異言を語る人が注意すべき事項を調べてみましょう。

一、異言を語りながら代表のお祈りをしてはなりません。“異言を語る者は、人に向かってではなく、神に向かって語っています。それはだれにも分かりません。彼は霊によって神秘を語っているのです。”としました。二、異言で説教をしようとしてはなりません。“しかし、わたしは他の人たちをも教えるために、教会では異言で一万の言葉を語るより、理性によって五つの言葉を語る方をとります。”だとしました。三、異言のお祈りと異言の賛美は時と場所を弁えて適当にすべきです。

使徒パウロは信者達が礼拝の集まりで異言を語る場合に注意すべき点を教えました。なので聞く人々が誤解して異言に対して拒否を感じる恐れがありました。従って、このような誤解を遮断するため“あなたがた皆が異言を語れるにこしたことはないと思いますが”、“わたしは、あなたがたのだれよりも多くの異言を語れることを、神に感謝します。”としました。そしては断固とした語調で“...異言を語ることを禁じてはなりません。”としました。皆さんは使徒パウロのこのような願いと感謝、命令に深く共感しながら異言で語る有益を多く享受するよう祝福します。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム ‘緑の牧場、清い川’ 本の語り中」



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

聖書には神様の心になう人々と神様の心になわな人々に関するお話が記録されています。旧約聖書でイスラエルの歴史に対する記録を見れば “その先祖ダビデのようではなくて” あるいは “その先祖ダビデの道で実行して” という言葉がユダ歴代王たちに対する評価基準に記録されています。ダビデはこんな面で神様に認められた人でした。今日の本文には “その時、人々が王を要求したので、神はベニヤミン族の人、キスの子 サウロを四十年間、彼らにおつかわしになった。それから神はサウロを退け、ダビデを立てて王とされたが、彼についてあかしをして、『わたしはエッサイの子ダビデを見つけた。彼はわたしの心になった人で、わたしの思うところを、ことごとく実行してくれるであろう』” と記録されています。今日は本文に出るダビデがどのようにして神様から “私の心になう人” というほまれある称号を得るようになったのかをよく見ます。

第一、ダビデは自分に任せられた仕事を使命感を持ってまじめに遂行しました。

ダビデはエッサイが生んだ八人の息子の中で末っ子でした。少年ダビデは兄さんたちがすべて嫌やがる羊飼いの仕事を引き受けました。しかし兄さんたちに不平を言わないで自分に与えられた事をまじめにさせました。ダビデが羊を放牧した野原には獅子や熊が出現しました。だから少年ダビデには危険負担がとても大きい事でした。ダビデはお父さんと兄さんたちに不満を抱かないで羊群れの面倒を見ました。甚だしくは羊群れで子をつかむ獅子と熊を追い掛けて行ってつかんで争って殺しました。命を掲げた行動でした。ダビデは自分に任せられた仕事に責任感を持ってまじめに楽しく遂行しました。積極的に能動的に働きました。人にするようにしないで神様にするようにしたからです。コロサイ人への手紙 3 章 23 節、24 節に記録されるのを “何をするにも、人に対してではなく、主にに対してするように、心から働きなさい。あなたがたが知っているとおり、あなたがたは御国をつぐことを、報いとして主から受けるであろう。あなたがたは、主キリストに仕えているのである。” と言いました。誠実が神様の品性です。ダビデのまじめな態度が神様の心になったのです。神様の心になう人と言うのは自分がすべきことをまじめに遂行するこのような人です。

第二、ダビデは神様が委任した権威を尊重しました。

人が神様の権威が分かってその権威の下に従う時に全く幸せで賢い生を暮すようになります。聖書は神様の権威に対する知識と同時に神様の権威に従って生きる道に関して教訓しています。

はわたしの心になった人

神様の権威は絶対的で永遠なのです。人間は神様が決めた事に対して計算する位置にいません。神様の決定には神様の絶対的な権威が内在しています。神様の永遠な権威に対してユダの手紙 一章 25 節に記録されるのを “すなわち、わたしたちの救主なる唯一の神に、栄光、大能、力、権威が、わたしたちの主イエス・キリストによって、世々の初めにも、今も、また、世々限りなく、あるように、アメン。” としました。またすべての権威は神様から来ます。だからすべての権威を尊重しなければなりません。そしてすべての権威は神様の御旨に適うように使われなければなりません。その権威を神様の御旨に行き違うように使えば神様の審判を免れることができません。ダビデに関する話に帰って見ましょう。ダビデがゴリアテを殺したなのでイスラエルが勝利を得るようになりました。軍隊が城に帰って来る時人々が歌と踊ってサウロ王を歓迎しながら “サウロの殺した者は千千でありダビデは万々だ。” としました。このお話によってサウロ王はダビデを警戒するようになったしとうとうダビデを殺そうと何回も試みましたが失敗しました。死ぬ頃を何回も越したダビデはサウロの顔面を避けて逃避の道に上がりました。このようなダビデを殺そうとサウロ王は軍隊を直接導いて追って通いました。そうするうちに一番はサウロ王がダビデが身を避けている穴に入って来ました。ダビデと彼の追従者は穴の深い所にあったから見付からなかったです。ところでサウロ王がその所に横になってしばらく間眠りました。ダビデの追従者が絶好の機会であるからサウロ王をお殺すと忠告しました。ダビデはそっと近付いてサウロ王の上着裾だけ切りました。そして追従者に “ダビデもまた、そのあとから立ち、ほら穴を出て、サウルのうしろから呼ばわって、「わが君、王よ」と言った。サウルがうしろをふり向いた時、ダビデは地にひれ伏して拝した。” (サムエル記上 24:8) と言いました。また人々を禁じてサウロを害することができないようにしました。もう一度はサウロ王がダビデを捜し回っている途中荒地で野営をしました。ダビデが部下を連れて近付いて見たらサウロ王が陣の中で横になったし皆が疲れてけだるく寝ていました。サウロ王の枕元にはやりがささっていました。ダビデの部下がダビデに言うのを私がやりで王を一気に突いて殺すように承諾してくださいと言ってしました。ダビデはこれを禁じて “しかしダビデはアビシャイに言った、「彼を殺してはならない。主が油を注がれた者に向かって、手をのべ、罪を得ない者があろうか」。ダビデはまた言った、「主は生きておられる。主が彼を撃たれるであろう。あるいは彼の死ぬ日があるであろう。あるいは戦いに下って行って滅びるであろう。主が油を注がれた者に向かって、わたしが手をのべることを主は禁じられる。しかし今、そのまくらもとにあるやりと水のびんを取りなさい。そしてわれわれは去ろう。」” (サムエル記上 26:9~11) しました。ダビデがその所を発って遠く山頂に立って大きい声で叫んでサウロ王とその臣下を起こした後自分がサウロ王のやりと水びんを持って来たことを知らせました。ダビデがこんなに行った理由はサウロ王に委任された神様の権威を重大に思ったからです。神様がくださった権威を神様の御旨を逆って濫用したサウロ王に対しては神様が審判なさるはずであるがダビデ自分が判士の席に立つ越権の行為はしないようにしたのです。ダビデは神様の権威に対する知識を持ったしその権威を重大に思いました。神様の心になう人と言うのは神様の権威を重く思う人です。

第三、ダビデはどんな状況でも神様のみを仕えました。

信者の中には神様を仕えることから片方に行う者があります。その理由は概して二つです。その中に一つは、生活が安定して仕事が万事が意のとおりになる場合です。この時に高慢な心が生じます。すべてのものを当然之事で思うとか自分の力と知恵になったことで思います。そして信仰生活を付随的な事で扱うようになります。他の一つは、その反対の場合で患難が重畳されれば鬼にでも助けを得ようと思えます。ダビデはどんな状況に処してもエホバ神様のみを仕えました。神様に訴えて神様を頼りました。彼は多くの歳月をサウロ王の追跡を避けて逃避生活をしました。隣り国で逃避して異邦王の助けを受けるまでしました。しかし偶像仕える国に泊まって異邦王の助けを借りる状況でも自分の安全と生存のために偶像宗教を仕える行為は決してしなかったです。神様の心になう人と言うのはどんな状況でもイエスキリストの神様のみを仕えるこのような人です。

第四、ダビデは礼拝させていただくのを切望して楽しみました。

ダビデは彼がサウロ王の追跡を避けて通う時一番願ったことの中一つが神様の聖殿に行って礼拝するのでした。詩編 84 編は “あなたの大庭にいる一日は、よそにいる千日にもまさるのです。わたしは悪の天幕にいるよりは、むしろ、わが神の家の門守となることを願います。” (詩篇 84:10) としました。ダビデは聖殿で礼拝するのを切望しました。ダビデは神様を礼拝する家所である聖殿を建築するのを熱望しました。しかし神様は聖殿建築をダビデに承諾しなくて、その息子ソロモンがするとおっしゃいました。するとダビデは聖殿建築のための資材と建築費用と技術者を豊かに予備する仕事をしました。聖殿建築設計まですべてしました。このすべてのものをその息子に渡してやりました。ダビデはこのように神様を礼拝することを大きい楽しみと特権で思いました。神様の心になう人と言うのは礼拝していただくのを切望して楽しむこのような人です。

今までよく見たこと以外にも私たちはダビデから独特の模範を見られるが今日はその中で四種類だけよく見ました。ダビデは自分に任せられた仕事を使命感を持ってまじめに遂行しました。ダビデは神様が委任した権威を尊重しました。ダビデはどんな状況でも神様のみを仕えました。ダビデは礼拝させていただくのを切望して楽しみました。神様が “わたしはエッサイの子ダビデを見つけた。彼はわたしの心になった人で、わたしの思うところを、ことごとく実行してくれるであろう” このようにおっしゃった理由はなによりも神様の主権的な選択にあります。しかし一方ではダビデの性分と信仰的態度にも関連があります。私たちもダビデの性分と信仰的態度を模範として行うので神様から “わたしの心になった人” という栄誉な称号と呼ばれられるように願います。